

## 第1章 はじめに

### 1-1 北空知4町地域公共交通計画策定の背景と目的

北空知4町(妹背牛町、秩父別町、北竜町、沼田町)地域は、暑寒別天売焼尻国定公園をはじめとして美しく自然環境に恵まれた地域であるとともに、石狩川と雨竜川の流域地帯に位置し、肥沃な大地と水資源に恵まれた、北海道の代表的な稲作地帯を形成しています。

本地域は、深川市を中心市とした北空知定住自立圏を形成しており、本地域内を運行する鉄道をはじめとする公共交通の多くが、深川市まで接続しています。

一方で、本地域の人口は年々減少しており、直近の令和2年国勢調査結果では、地域全体で9,655人と、前回の平成27年国勢調査結果と比較し、1,111人の減少となっています。各町で策定している人口ビジョンによれば、今後も人口減少の傾向は継続し、令和7年には8,310人となることが予想されています。

また、本地域の高齢化率は上昇傾向となっていますが、人数ベースでは年々減少傾向にあり、これを超える速度で生産年齢人口(15~64歳人口)の減少が進むことが見込まれているため、公共交通の運転手不足や家族等による自主的な送迎も困難になることが予想されます。

本地域内を運行する公共交通は、通学や通院などを中心とした生活交通として、路線バス(沼田線、北竜線、深滝線等)が運行されているほか、本地域と他地域を繋ぐ広域交通として、JR函館本線・留萌本線の鉄道、北海道中央バスによる高速るもい号、沿岸バス及び道北バスの共同運行による留萌旭川線が運行されています。

しかし、JR留萌本線は、北海道旅客鉄道株式会社が「自社単独では維持することが困難な線区」と位置付け、令和5年4月に留萌・石狩沼田間を廃止しました。また、石狩沼田・深川間についても、令和8年4月の廃止について北海道旅客鉄道株式会社と沿線自治体との間で合意しています。一方、路線バスについても、北海道中央バスの滝川北竜線が令和4年3月末に廃止されたところであり、利用者の減少や乗務員不足などにより、地域住民をはじめとする移動の足の確保が難しくなってきています。

加えて、新型コロナウイルス感染症の影響により、通学者・通勤者をはじめとする利用者の多くが移動自粛を余儀なくされ、交通事業者の経営状況は、一層厳しい状況にあります。

このような背景の中、令和2年11月の地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の一部改正を踏まえて、地域住民の生活を支え、持続可能な将来の交通体系を構築するため、地域公共交通のマスタープランとなる「北空知4町地域公共交通計画」を策定します。

### 1-2 計画の区域

本計画の対象区域は、妹背牛町、秩父別町、北竜町、沼田町の4町を対象区域とします。

### 1-3 計画の期間

本計画の計画期間は、令和4(2022)年度から令和8(2026)年度の5ヶ年とします。

## 1-4 本地域の各町の概要及び気象等の整理

### (1) 各町の概要

本地域の4町（妹背牛町、秩父別町、北竜町、沼田町）の概要は以下のとおりです。

表 1-1 妹背牛町の概要


	妹背牛町 人口:2,693人(令和2年国勢調査) 面積:48.64km <sup>2</sup>	【町の見どころ・特産品】 ・妹背牛町カーリングホール ・妹背牛町産ななつぼし「プレミアム北彩香」
<p>妹背牛町は、総面積が北海道では3番目に小さな山のないまちで、北海道の母なる川「石狩川」が流れ、おいしいお米をつくるのに適した肥沃な大地が広がっています。</p> <p>明治36年に開拓の鍬が下ろされ、先祖先人のたゆまぬ努力により着実に発展を遂げ、道内屈指の良質米の生産地としてその名を誇っています。</p> <p>基幹産業である稲作を中心とした農業、住民の生活を支える地域密着型商店街を形成している商業、本町ならではの物づくりで雇用の充実を図っている工業、それぞれが本町の経済を支えています。</p> <p>農業・商業・工業に加え、源泉かけ流しで良質な泉質の「妹背牛温泉ペル」や「カーリングホール」・「パークゴルフ場」が併設された「遊水公園うらら」などの観光資源を有機的に結びつけ、各分野の経済的効果が波及・循環されていく仕組みづくりを目指しています。</p> <p>住民が「やすらぎ」や「ふれあい」を実感し、まちを訪れる人々が「ぬくもり」を感じることできるよう、地域住民をはじめ、企業や団体、行政が「協働」してまちづくりを進めています。</p>		

表 1-2 秩父別町の概要


	秩父別町 人口:2,329人(令和2年国勢調査) 面積:47.18km <sup>2</sup>	【町の見どころ・特産品】 ・ベルパークちっぷべつ屋内外遊戯場 ・秩父別町産ブロッコリー
<p>秩父別町は明治28・29年に北方警備の任務を帯びた屯田兵とその家族の入植によって拓かれたまちです。原生林を切り開き沼地を排水しながら開墾、先祖先人の逞しい開拓精神と弛まぬ努力によって着実に発展を遂げ、「日本の米づくり百選の地」に選ばれるなど、道内屈指の良質米の産地としてその名を誇っています。</p> <p>本町では、従来から人口の確保を最重要課題として、国が進める「地方創生」に先駆け、「住んで良かった」「住み続けたい」と思えるまちづくりに果敢に取り組んでいます。</p> <p>ベルパークちっぷべつ屋内外遊戯場には、町内をはじめ道内各地から大勢の親子連れが訪問している状況です。</p> <p>今後においても人口の確保を最重要課題に掲げ、次世代につながる「まちづくり」に対し、町民、議会、行政が協働し、その気運と輝きの連鎖を絶やすことなく、「人口増加は一人でも多く、人口減少は一人でも少なく」に向け、果敢に取り組んでいきます。</p>		

表 1-3 北竜町の概要



	<p>北竜町 人口:1,724 人(令和 2 年国勢調査) 面積:158.70 km<sup>2</sup></p>	<p>【町の見どころ・特産品】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひまわりの里</li> <li>・ひまわりライス</li> </ul>
<p>北竜町は北海道のやや中央にあり、空知管内の北部に位置しています。国道 275 号線が南北に、国道 233 号線と道道 94 号線が東西に走っており、車で札幌まで 2 時間、旭川まで 1 時間に位置するまちです。</p> <p>暑寒別岳を主峰とする増毛山脈と、その支脈が町内を走り、全面積の 70%が山林となっています。</p> <p>雨竜川他三川流域を主として肥沃な土地と豊かな水資源のもと、稲作を基幹作物とした「あかるい農法」のまちです。稲作については、低農薬、有機肥料等のクリーン農業により生産されたお米は「ひまわりライス」の名で JAS 規格を取得して販売されています。</p> <p>また、水田転作により果菜類やひまわりの作付けも盛んで北竜ひまわりメロン（北竜産龍の鈴）、北竜ひまわりすいか(黄色小玉西瓜)は道内でも有数の生産地となっています。</p> <p>昭和 55 年よりひまわりをまちのシンボルに掲げ、ひまわりによるまちづくりに取り組み、最近ひまわりが観光として一躍脚光を浴びて、開花シーズンには 30 万人以上の観光客が訪れるようになっています。</p>		

表 1-4 沼田町の概要

	<p>沼田町 人口:2,909 人(令和 2 年国勢調査) 面積:283.35 km<sup>2</sup></p>	<p>【町の見どころ・特産品】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほたるの里</li> <li>・「夜高あんどん祭り」</li> </ul>
<p>北海道のほぼ中央、空知総合振興局管内の北西部に位置している沼田町は、山は青く水は清い豊かな自然に包まれたまちです。</p> <p>南部の平坦部は広大な石狩平野の北端の一部で肥沃な水田地帯となっており、市街地や農耕地はこの平坦部を流れる雨竜川や小河川の流域に沿って南に開けています。また西側は牧場、畑作地帯、他の二方は山岳地帯で占められています。</p> <p>気候は内陸型で四季の区別がはっきりしており、自然を通して季節の変わりゆくさまを感じることができます。</p> <p>かつては炭鉱と稲作の町として繁栄してきましたが、昭和 43 年に雨竜炭鉱が閉山し、その後稲作中心の農業の町へと転換しました。</p> <p>平成 11 年にはNHK連続テレビ小説「すずらん」のロケ地として全国的に有名となり、現在では雪のエネルギー利活用や 7 月上旬から幌新地区で見られるほたる、8 月には北海道 3 大あんどん祭りの一つとして知られる「夜高あんどん祭り」など元気な沼田町を全国へ PR しています。</p>		

## (2) 本地域の気象

本地域の気候は晴れた日がやや多く、日中と夜間の寒暖差が大きいことが特徴です。気温は北海道内では中間的であり、平成 29 年から令和 3 年までの 5 力年平均の年間平均気温は 7.2℃、最も気温が高い 7 月は 21.2℃となり、最も気温が低い 1 月は-7.4℃となっています。また、5 力年平均の年間の合計降水量は 957.3mm で、最深積雪は 100.6cm となっています。



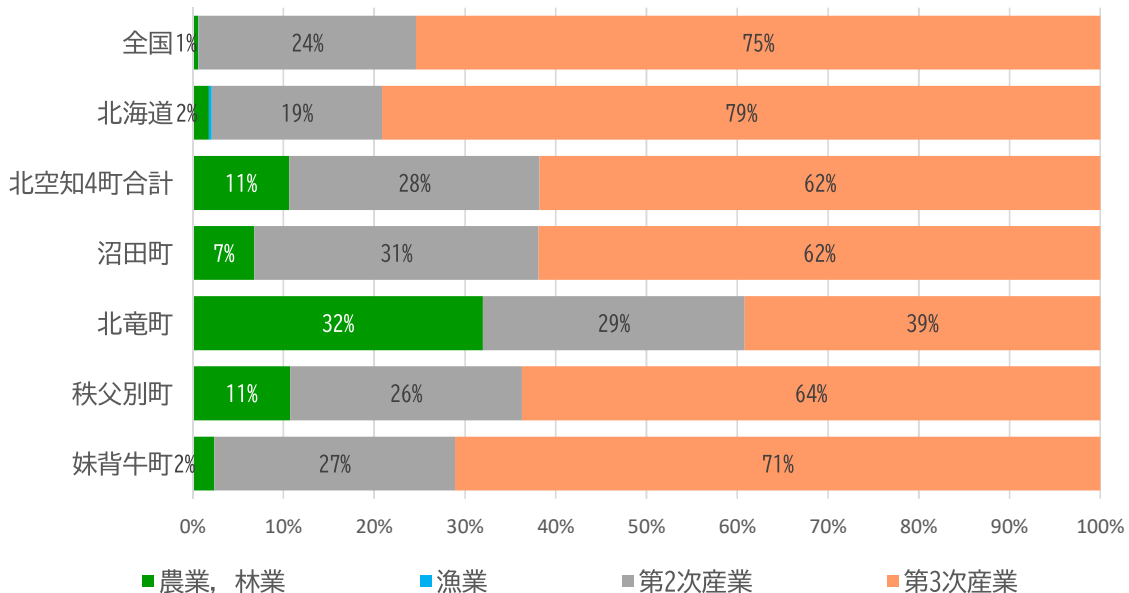
参考：気象庁（深川地点）

(<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>) をもとに作成

図 1-1 本地域の降水量及び気温推移（2017 年から 2021 年の平均値）

## (3) 本地域の産業構造

本地域は道内でも屈指の米の生産地であることから、「農業・林業」従事企業の占める割合が高くなっています。



※第2次産業は3業種、第3次産業は13業種の合算

※出典：内閣府（地域経済分析システム（RESAS）-2016年データ）

図 1-2 産業構造の比較